

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	タクシー運転手	来客数の動き	・1月は、大雪など天候の悪い日が多かったことから、雪のない時期と比較すると、タクシーの利用が多く、売上は前年比プラス40%となった。12月17日から、運賃引上げと2割の冬季割増運賃が認可されたことで、タクシー1台当たりの売上も前年比プラス10%となっている。また、乗務員の採用に注力した効果でドライバーも増えており、タクシーの稼働台数も前年比プラス30%であった。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・ガソリンの暫定税率廃止による効果や今後の減税に対する期待感で、客の消費意欲が上向いている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・食品部門を中心に、来客数が増加している。客単価も上昇している。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・中国からのインバウンドは減っているものの、韓国や台湾からのインバウンドが好調なことから、売上は好調に推移している。例年よりも積雪が多いことで、まとめ買いが増えており、買上点数も増加している。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車両生産がやや回復していることで、登録台数が前年を上回るようになってきた。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・受注台数をみると、新車が前年から3割の増加、中古車が8割の増加となっている。ただし、サービス部門の売上は2割ほど減少している。
	○	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・韓国や台湾を中心に、インバウンドのグループ客による利用が堅調であった。国内個人客の集客も落ち込んでおらず、計画を上回る売上となった。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・冬の観光繁忙期を迎え、ウィンタースポーツ目的のインバウンドが増加している。中国便の運航は減少しているものの、東南アジアなどからの便が増加しているため、中国便の落ち込みによる影響はそれほど大きくはない。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数の推移をみると、3か月前よりも減少幅が縮小しており、前年並みに近づいている。ただし、中国からのインバウンドについては、キャンセルの動きが継続しており、Web予約が減少している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・夜間、特に金曜日は、新年会などで多少のにぎわいがみられる。一方、昼間の来客数は、冬期間ということもあって少ない。ただし、有名店については、観光客の来店がまずまずみられる。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・売上は、2025年比で91.1%、2024年比で163.2%、2023年比で183.6%、2022年比で519.3%、2021年比で173.2%、2020年比で206.8%となっている。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・1月は大雪の影響で人出が少なく、その影響で当店の売上も落ち込んでいる。
	□	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・衆議院選挙と大雪の影響により、1月下旬の来客数が減っている。ただし、中旬までの状況は悪くなかった。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・この時期は天候に左右されることが多く、今年も天候の悪さが来客数の落ち込みにつながっている。先行きについても、読めない状況となっている。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・客から、物価高の話を聞くことが増えている。
	□	スーパー（企画担当）	それ以外	・売上は前年を上回っているものの、販売量が減少している。値上げ効果が売上の落ち込みをカバーしている状況にある。
	□	スーパー（役員）	それ以外	・今後、多数の食料品で値上げが予定されていると、ニュースなどで報道されていることから、消費者の節約志向が続いている。
	□	スーパー（従業員）	単価の動き	・物価高の影響はあるものの、消費税引下げへの期待感があることから、景気は変わらない。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・相変わらず客が消費を控える動きが目立っている。客の来店頻度が低下している状況も続いている。

□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・催事が一段落していることもあって、年明け以降、商品の動きが余り良くない。秋口と比べて、伸びがみられないため、景気は変わっていない。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・通常、新型車が発売されると、初期受注の上乗せもあって、売上は前年を上回って推移することになる。ただし、今回は、これまでと比べて、売上の増加幅が縮小していることから、個人消費が低迷しているとうかがえる。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・年の瀬を迎えた12月の販売量が厳しかった分、1月の販売量が増えている。ただし、こうした傾向は例年どおりである。2月以降は販売量が増える傾向にあることから、今年も期待している。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上の前年比をみると、3か月前と比べて、売上が大きく増減していないことから、景気に変化はみられない。
□	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・石油製品価格が安定していることから、景気は変わっていない。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・天候の悪い日が多かったため、景気はやや悪い。当店は、観光客が少なく、地元客が中心であることから、物価高の影響による外食控えも進んでいる。このため、来客数が減少し、客単価も低下している。一方、他店では単価の高い定食メニューが評判の和食店もみられ、男性の1人客でにぎわっている。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・年が明けても、余り良い状況ではないものの、何とか経営できている。また、衆議院選挙が始まったことから、この先も景気は余り良くないとみられる。
□	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・インバウンドについて、中国からの来客が減少しているものの、東アジアや東南アジアからの来客が増えている。国内客については、余り変化がみられない。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・年が明け、販売量が増加すると見込んでいたものの、急きょ衆議院選挙が実施されることになったため、法人の団体旅行の動きが止まった。
□	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・円安の動きを受けて、3か月前よりも客単価が低下している。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・年末年始の来客数はまずまずであったものの、平日の来客数は例年並みであった。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・本格的な冬季に入り、利用客が増加している。タクシーの稼働状況も安定していることから、販売量が増加している。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月、物価高の影響で、客の雰囲気が悪くなっていたものの、1月に入り、良くも悪くもない状況に落ち着いてきた。来客数や売上の減少も収まり始めている。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・年末の買物が多く、国の交付金を活用した商品券の効果もみられた12月と比較すると、年が明けてからの客の動きは落ち着いている。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・厳冬期に入り、天候の悪化による欠航が増えたことから、旅客、車両共に輸送量が横ばいとなっている。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・建築単価の高止まりが続くなか、住宅ローン金利が上昇傾向に転じていることで、消費者の購買マインドは低下している。住宅業界を取り巻く環境は、厳しい状況が続いている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・大雪の影響で、交通網が麻ひしたことで、来客数の大幅な減少に悩まされている。天候の影響は仕方のないことだが、商店街としては大きな痛手である。また、排雪の遅れから、商品の入荷にも大幅な遅延が発生しており、二重苦となっている。

▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・国内客の様子をみると、値札を気にしている客が多い。また、購入点数をできるだけ少なくしようという様子もうかがえ、以前のように、一度にたくさんの商品を買う状況はみられなくなっている。ただし、インバウンドについては、客単価の高い客が多くみられる。
▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・例年、1月はインバウンドのシェアが高くなる傾向がある。今年は中国人の来客数が減少していることから、売上に影響が生じている。中国以外の国や地域からの客は増えているものの、中国人と比較すると単価が低いため、落ち込み分を十分にカバーできていない。降雪の影響により、地元客は減少している。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・景気はやや悪くなっている。ただし、今後の動向については、衆議院選挙の結果次第の面もある。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・来客数の減少が続いているなか、12月と比べて、落ち込み幅が拡大している。特にアルコール、たばこの売上が減少している。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・大雪などの天候要因もあって、来客数が伸びていない状況にある。
▲	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・12月と比べると、来客数が20%の減少、売上が15%の減少となっており、落ち込みがみられる。
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・元々、当地は雪に慣れている地域であるものの、今年のような交通障害は数十年ぶりである。そのため、来客数が減少しており、厳しい状況となっている。
▲	その他専門店〔造花〕（店長）	来客数の動き	・1月は、雪の影響が大きい月であった。来客数が前年から2割近く減少するなど、落ち込みが目立っている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・閑散期ということもあって、インバウンドも含めて、来客数が減少傾向にある。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・当地全体的に観光客が減っている。インバウンドは一定数が訪れているものの、その少ない人数を取り合っている状況にある。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・百貨店や小売店などにおいて、元日営業の取りやめや年末年始の休業期間延長の動きがみられることから、人出が減少しており、それに伴ってタクシーの売上も減少している。
▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・1月下旬の大雪までは、前年を上回る来客数、販売量となっていたものの、大雪の後は来客数が激減しており、販売量も回復してこない状況にある。積雪が例年並みの状況に落ち着くまで、来客数も販売量も減少することが見込まれる。
▲	観光名所（従業員）	来客数の動き	・インバウンドについて、国籍の多様化が進んでいること、国内団体観光客について、1団体当たりの参加人数が増加傾向にあることなどプラス要素は多いものの、1月は天候に恵まれなかったことが大きく影響した。公共交通機関の運休や遅延により、地域への入込客が減少したことに加え、視界不良の日が多かったことで、当施設の利用者も減少した。
▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ数か月、売上の変動が5%未満と少なく、順調に推移していたものの、1月は10%前後の落ち込みが見込まれる。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価が上がっていく一方であることから、景気はやや悪くなっている。
▲	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・ここに来て、分譲マンションのモデルルームを来訪する客が減少傾向にある。
×	スーパー（店長）	お客様の様子	・ガソリンの価格は下がっているものの、灯油の価格が全く下がってこない。今は寒さの厳しい時期であり、客が灯油などの光熱費に金を割いていることから、安い商品や目玉商品は売れるものの、それ以外の必要性の高くない商品が売れていない状況にある。

	×	衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・円安が一段と進み、今後の更なる物価高が懸念されることから、客の節約志向がますます強くなっている。衣料品は、家計で最初に節約される部分であり、より価格の安いファストファッション系に客が流れる傾向が強いことから、当店のようなおしゃれさを売りにしている服は、真っ先に節約対象となる。
	×	衣料品専門店 （店長）	販売量の動き	・1月に入り、ようやく冬らしい気温となったものの、コートなどの売行きが前年以上に悪くなっている。気温の高かった12月の販売不振が全く改善されていないことから、これまで以上に、客の財布のひもが固くなっていることがうかがえる。
	×	住宅販売会社 （経営者）	販売量の動き	・住宅着工は引き続き低調に推移している。大雪の影響で、工事の進捗にも遅れがみられる。また、積雪が増えていることで、小売にも悪影響が生じている。
企業 動向 関連 （北海道）	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・年明けから降雪量が増えていることで、現場にも雪の影響が一定程度生じているものの、多くの現場では、予定どおり完工期に入っている。契約変更による追加工事が完成工事高と利益を押し上げており、当初計画を大きく上回ることが確実となっている。
	○	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・12月は当社の決算期であり、厳しい状況ではあったものの、どうにか予算を達成することができた。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	取引先の様子	・資材価格の高騰や人手不足といった懸念材料はあるものの、国内建設投資は引き続き堅調に推移している。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年よりも収穫量が少ないため、出荷量をなかなか決められない農業団体や卸売業者が増えている。春節が例年よりも遅いことも影響している。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量に変化がみられないことから、景気は変わっていない。
	□	建設業（経営者）	取引先の様子	・例年、次年度に向けての見積依頼が増えてくる時期であるものの、今年は大型案件の見積依頼が僅かにみられる程度である。中小規模の案件については、まだ見積依頼がないことから、景気は厳しいまま変わらない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・人手不足のため、契約に至らない案件が引き続き多くみられる。また、工事費高騰により、計画凍結となる案件が増え始めている。
	□	輸送業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・バターや粉乳などの乳製品について、倉庫保管が堅調に推移している。一方、トレーラー輸送については、全国的に苦戦しており、取扱台数が前年比で10%弱の減少となっている。当地における紙パルプの減産、雑貨や生乳などの農産品の輸送量減少が要因であり、こうした状況は春まで続くことになる。
	□	司法書士	取引先の様子	・依然として、物価上昇が続いていることがマイナスとなっている。また、円安の動きが強まっていることから、物価上昇は今後も続くとみられ、しばらくは厳しい状況が続くことになる。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・前年と比べると、売上はやや減少しているものの、3か月前と比べると、ほとんど変わっていない。周りの同業者をみても、景気は悪くないようである。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・物価高や半導体不足などのマイナス要素はあるものの、周りの様子は大きく変わっていない。今後も景気が大きく変わることはないと思込まれる。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・中国からのインバウンドの比重が高かった販路において、12月以降、売上に影響が出ている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設費の高騰により、新築住宅の着工棟数が前年比85%と落ち込んでいる。人口減少が見込みよりも早く進んでおり、回復の兆しも見当たらないため、今後も増加に転じることは考えにくい。

	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・企業から、価格転嫁を進めているという声は聞くものの、物価高の影響で原材料価格や諸経費が高騰し、人件費や労務費も上昇していることから、利益が圧迫されているとの声も依然として聞く。値上げによる需要の減少を懸念する声も聞かれることから、景気はやや悪くなっている。
	▲	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （従業員）	受注量や販売量の動き	・地域によるばらつきはあるものの、全体的に市場が停滞している。受注している仕事をこなす環境が悪いことで、効率良く仕事をできていない状況もうかがえる。
	×	食料品製造業 （従業員）	受注量や販売量の動き	・1月の販売量は、前年比マイナス14%であったが、3か月前の販売量は前年比マイナス1%だったことから、景気は悪くなっている。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・例年、年末に求人数が落ち込む傾向がみられるものの、今年は3か月前と比較して、求人数が3割増加しており、企業の求人意欲が旺盛である。企業の人材不足感は増しており、業績拡大の足かせとなっていることがうかがえる。ただし、採用基準を下げてまで人材を採用する動きは少ない。企業は、人材の採用によるマンパワーの強化を目指しており、スキルの高い人材の取り合いとなっている。安易に転職に踏み切ると、採用までの時間が長くなる傾向もみられている。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・業種を問わず、求人数に特徴的な動きはみられないことから、景気は変わっていない。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	周辺企業の様子	・企業から明るい話題は余り聞こえてこない。売上は、微増又は横ばいで推移しているものの、物価上昇に伴い、商品価格が上昇していることが大きく影響している。一方、来客数が減少傾向にあること、コスト上昇の影響が強まっていることから、企業の利益は減少傾向にある。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は3か月連続で前年を下回っているものの、求人数の減少幅が縮小しており、落ち込みの大きい状況が継続しているとまではいえない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における12月の有効求人倍率は0.81倍であり、前年を0.08ポイント下回り、5か月連続で前年を下回った。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の求人数は減っている。ただし、職業安定所以外での採用活動を行っていたり、急場しのぎでスポットワークを活用していることもあって、企業が採用を抑制しているわけではない。一方、人手不足のなか、企業が採用を厳選している様子もうかがえる。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・人手不足感の強い業種、職種はあるものの、求人数に大きな増減はみられないことから、景気は変わっていない。また、宿泊・飲食サービス業の求人数が若干減少傾向にあるものの、インバウンド、特に中国人の動向が強く影響しているわけではない。
	□	学校〔大学〕 （就職担当）	求職者数の動き	・採用活動を継続している企業がある一方で、未内定の学生に積極的な動きがみられない。
	▲	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数の減少に歯止めが掛からない。ほとんど全ての業界で求人件数が減少している。
	×	—	—	—